（様式第 10）

防医病支第２３４２号
令和２年１２月２３日

厚生労働大臣　殿

開設者名　防衛大臣　岸　　信　夫　　（印）

防衛医科大学校病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。

記

1　開設者の住所及び氏名

住　　所	〒１６２－８８０１　東京都新宿区市谷本村町５－１
氏　　名	防衛大臣　岸　信夫

（注）　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名　　称

防衛医科大学校病院

3　所在の場所

〒３５９－８５１３　埼玉県所沢市並木３－２
電話(04)2995－1511

4　診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

（注）　上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	㊀・無

内科と組み合わせた診療科名等

①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
⑤神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科	⑧代謝内科
⑨感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科		11リウマチ科

診療実績
リウマチ科の診療は、アレルギー疾患内科またはアレルギー科において提供している。

（注）1　「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2　「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	㊒ ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科　②消化器外科　③乳腺外科　4 心臓外科 5血管外科　⑥心臓血管外科　⑦内分泌外科　⑧小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科　②小児科　③整形外科　④脳神経外科　⑤皮膚科　⑥泌尿器科
⑦産婦人科　⑧産科　⑨婦人科　⑩眼科　⑪耳鼻咽喉科　⑫放射線科
13 放射線診断科　14 放射線治療科　⑮麻酔科　⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	㊒ ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科　2矯正歯科　③口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科	2 腫瘍化学療法部	3 緩和ケア室	4リハビリテーション部			5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21					

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精　神	感染症	結　核	療　養	一　般	合　計
３６床	１０床	床	床	７５４床	８００床

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職　種	常　勤	非常勤	合　計	職　種	員　数	職　種		員　数
医　師	93人	16.3人	109.3人	看護補助者	36人	診療エックス線技師		0人
歯科医師	7人	0.7人	7.7人	理学療法士	3人	臨床検査技師		27人
薬剤師	23人	0人	23人	作業療法士	2人	衛生検査技師		0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	2人	その他		0人
助産師	13人	0人	13人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師		0人
看護師	384人	5.7人	389.7人	臨床工学士	7人	医療社会事業従事者		2人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	人	その他の技術員		6人
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯科技工士	1人	事務職員		21人
管理栄養士	3人	0人	3人	診療放射線技師	24人	その他の職員		0人

(注) 1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人　数	専門医名	人　数
総合内科専門医	34人	眼科専門医	7人
外科専門医	29人	耳鼻咽喉科専門医	8人
精神科専門医	8人	放射線科専門医	8人
小児科専門医	12人	脳神経外科専門医	10人
皮膚科専門医	4人	整形外科専門医	15人
泌尿器科専門医	11人	麻酔科専門医	9人
産婦人科専門医	12人	救急科専門医	6人
		合　計	173人

(注) 1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（淺野　友彦）　任命年月日　平成２９年　４月　１日

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	433.9人	6.1人	440.0人
1日当たり平均外来患者数	1,120.8人	52.9人	1,173.7人
1日当たり平均調剤数	740剤		
必要医師数	70人		
必要歯科医師数	1人		
必要薬剤師数	13人		
必要（准）看護師数	221人		

（注）1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数（毎日の 24 時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。

3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10　施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	203.2m²	鉄筋コンクリート	病床数	11床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	［固定式の場合］ 床面積 52.3m²　病床数 4床 ［移動式の場合］ 台数 10台					
医薬品情報管理室	［専用室の場合］ 床積 37.8m² ［共用室の場合］ 共用する室名					
化学検査室	252m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）生化学迅速検体検査システム、全自動化学発光免疫測定装置、全自動蛍光酵素免疫測定装置、血液ガス分析装置			
細菌検査室	270m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）自動細菌検査装置、全自動抗酸菌培養検査システム、全自動高圧滅菌器、恒温器、CO_2培養器			
病理検査室	252m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）電子顕微鏡、自動免疫組織化学染色装置、染色封入システム、凍結標本作製システム、密閉式自動固定包埋装置			
病理解剖室	164m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）解剖台、空気清浄排気システム、安全キャビネット、ホルマリン希釈装置、超低温槽			
研究室	18,661m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）電子顕微鏡、遺伝子導入装置、定量遺伝子増幅装置、生体分子間相互作用解析装置、質量分析システム			
講義室	5,435m²	鉄筋コンクリート	室数	13室	収容定員	1,200人
図書室	3,023m²	鉄筋コンクリート	室数	8室	蔵書数	約19万冊程度

（注）1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	100.6%	逆紹介率	51.9%
算出根拠	A：紹介患者の数	15,692人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,548人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	2,820人	
	D：初診の患者の数	18,389人	

(注) 1　「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2　「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3　A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
斉藤　祐次	所沢市薬剤師会 顧問	○	医療に関する見識を有する者	有・(無)	1
大舘　千歳	国立障害者リハビリテーションセンター病院 看護部長		医療に関する見識を有する者	有・(無)	1
島戸　圭輔	二番町法律事務所（弁護士）		法律に関する見識を有する者	有・(無)	1
奈良　信和	自治体職員		医療を受ける者	有・(無)	2
根本　孝一	永仁会入間ハート病院		医療に関する見識を有する者	有・無	1

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	(有)・無
委員の選定理由の公表の有無	(有)・無
公表の方法 防衛医科大学校病院ホームページ	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検	6人
術後のアスピリン経口投与療法	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	大腸癌術後ドレーン排液中および血中炎症性サイトカイン濃度による再発	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 サイトカイン濃度は術中に腹腔内に散布された遊離癌細胞や腫瘍剥離面付近に遺残した癌細胞の再活性化や浸潤増殖に影響する可能性がある。今回の検討ではドレーン排液および血中の炎症性サイトカイン濃度の測定による再発予防法を開発する。			
医療技術名	ファイバーガイド炭酸ガスレーザーによる局所麻酔下外来日帰り軟性内視鏡下咽喉頭手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 軟性内視鏡のガイドチャンネルを介入したファイバーガイド炭酸ガスレーザーを用いた局所麻酔下咽頭手術の適用認可を目指し、その有用性、安全性に関する検討を行う。			
医療技術名	大腸癌生検組織を利用した癌悪性度評価及び予後予測	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 内視鏡下生検組織により癌の悪性度予測が可能となり、手術前の治療方針決定に利用できる等、臨床的意義は大きい。			
医療技術名	滲出型加齢黄斑変性に対する抗血管内皮増殖因子療法における前房水中サイトカイン濃度モニタリングの有用性に関する検討	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 滲出型AMDの寛解及び増悪時において関与する炎症性サイトカイン濃度をモニタリングすることで、BCVA及びCMTに加えた滲出型AMDの病態を予見しうる新たな治療指標となる前房水中サイトカイン濃度モニタリングを開発する。			
医療技術名	血中Mesothelinに着目した新規腫瘍マーカーの開発	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 血中Mesothelin測定が切除標本のMesothelin発現と一致するか、他の腫瘍マーカー及び各種画像検査と比較して腫瘍の再発モニタリングに有用であるかを検討する。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

（注）1　当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2　医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4　指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	7	56	ベーチェット病	61
2	筋萎縮性側索硬化症	20	57	特発性拡張型心筋症	5
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	9
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	51
6	パーキンソン病	188	61	自己免疫性溶血性貧血	7
7	大脳皮質基底核変性症	1	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	87
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	3	65	原発性免疫不全症候群	8
11	重症筋無力症	115	66	IgA 腎症	28
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	19
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	1	68	黄色靭帯骨化症	3
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	28	69	後縦靭帯骨化症	29
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	
16	クロウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	10
17	多系統萎縮症	16	72	下垂体性ADH分泌異常症	
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	29	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライソゾーム病		74	下垂体性PRL分泌亢進症	
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	6
21	ミトコンドリア病	1	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	19	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合	1
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	1	83	アジソン病	4
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	107
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	1
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	16
32	自己貪食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンペル症候群		88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	1	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	15	90	網膜色素変性症	4
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬（汎発型）		92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	81
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	5
40	高安動脈炎	1	95	自己免疫性肝炎	50
41	巨細胞性動脈炎		96	クローン病	141
42	結節性多発動脈炎	10	97	潰瘍性大腸炎	262
43	顕微鏡的多発血管炎	29	98	好酸球性消化管疾患	
44	多発血管炎性肉芽腫症	4	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	3	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	11	101	腸管神経節細胞僅少症	
47	バージャー病	10	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	192	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	1	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	5	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	30	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	133	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	9	109	非典型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎		110	ブラウ症候群	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4　指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	19
113	筋ジストロフィー	1	163	特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜症	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	2
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR－X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候		184	アントレー・ビクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群		194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症		208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4　指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	1
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263	脳腱黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	42	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群		270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	1
224	紫斑病性腎炎		272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）		274	骨形成不全症	
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	
231	α1－アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	3	283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンコニ貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸	
244	メープルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膵炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	4
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース－1－リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	3

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4　指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
307	カナバン病		319	セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	
309	進行性ミオクローヌスてんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β―ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L－アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症		327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5　届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療料）

施設基準の種類	施設基準の種類
・初診料（歯科）の注1に掲げる基準	・特定集中治療室管理料3
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・小児入院医療管理料2
・歯科外来診療環境体制加算2	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・特定機能病院入院基本料　一般　7対1入院基本料　看護必要度加算2	・
・特定機能病院入院基本料　精神　15対1入院基本料	・
・超急性期脳卒中加算	・
・救急医療管理加算	・
・診療録管理体制加算2	・
・急性期看護補助体制加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・後発医薬品使用体制加算2	・
・データ提出加算	・
・入退院支援加算	・
・認知症ケア加算	・
・精神疾患診療体制加算	・
・救命救急入院料1	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・糖尿病合併症管理料	・画像診断管理加算1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・がん患者指導管理料イ	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・がん患者指導管理料ロ	・外来化学療法加算1
・がん患者指導管理料ハ	・無菌製剤処理料
・がん患者指導管理料ニ	・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
・外来緩和ケア管理料	・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
・婦人科特定疾患治療管理料	・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
・外来放射線照射診療料	・がん患者リハビリテーション料
・療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算	・透析液水質確保加算
・がん治療連携計画策定料	・センチネルリンパ節加算
・薬剤管理指導料	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・医療機器安全管理料1	・組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）
・医療機器安全管理料2	・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定	・椎間板内酵素注入療法
遺伝学的検査	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・BRCA1／2遺伝子検査	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便過活動膀胱）
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・検体検査管理加算（Ⅰ）	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）
・検体検査管理加算（Ⅳ）	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）
・遺伝カウンセリング加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・神経学的検査	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
・補聴器適合検査	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
・ロービジョン検査判断料	・植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術

施設基準の種類	施設基準の種類
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）	
大動脈バルーンパンピング法（IABP法）	
・腹腔鏡下肝切除術	
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	
・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）	
・同種死体腎移植術	
・生体腎移植術	
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	
・人工尿道括約筋植込・置換術	
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	
・輸血管理料Ⅱ	
・自己生体組織接着剤作成術	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・麻酔管理料（Ⅰ）	
・麻酔管理料（Ⅱ）	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・入院時食事療養費（Ⅰ）	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7　診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変（MRD）量の測定	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（注）1　特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
（注）2　「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8　病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	消化器外科・内科、整形外科、産婦人科　1回/月 呼吸器外科・内科、乳腺外科・放射線科、腎臓内科　1回/週 剖検検討会　2～3回/月　病院CPC　3回/年
剖検の状況	剖検症例数　47例　／　剖検率　14.8%

（注）「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	補助元又は委託元	
虚血性神経障害による下肢切断リスク回避のための光音響イメージング開発	石原 美弥	医用工学	2,730,000	補 委	文科科研費
ドラッグデリバリー型光温熱薬剤と加温制御機構を駆使した高効率がん治療システム	守本 裕司	生理学	5,590,000	補 委	文科科研費
国際コンソーシアムを活用した日本発の痛風の分子疫学研究による予防医学への応用	松尾 洋孝	分子生体制御学	4,550,000	補 委	文科科研費
PIP3関連分子異常による原発性免疫不全症の病態解明と新規原因遺伝子同定	野々山 恵章	小児科学	4,550,000	補 委	文科科研費
新規低分子Met stimulatorの開発と医学応用への基盤形成	四ノ宮 成祥	分子生体制御学	5,850,000	補 委	文科科研費
2型糖尿病におけるERK2による異所性脂肪沈着制御と心血管合併症の検討	足立 健	内科学	3,380,000	補 委	文科科研費
高齢者救急医療における貪食細胞機能強化に着目した薬剤耐性菌敗血症への新規治療戦略	木下 学	免疫微生物学	5,980,000	補 委	文科科研費
両イオン性高分子の体内動態に関する研究	山田 直生	生理学	713,234	補 委	文科科研費
光音響イメージングに基づく臓器横断的なシンギュラリティ現象の解明	石原 美弥	医用工学	3,300,000	補 委	文科科研費
顕微注入を伴わないin situゲノム編集技術による遺伝子改変個体の簡便な作成	中村 伸吾	防衛医学研究センター 医療工学研究部門	6,240,000	補 委	文科科研費
東日本大震災の災害救援業務において救援者が被る心理的影響に関する縦断研究	長峯 正典	防衛医学研究センター 行動科学研究部門	634,605	補 委	文科科研費
経口的喉頭機能温存手術後の音声・嚥下機能評価法の確立と臨床応用	谷合 信一	耳鼻咽喉科学	270,971	補 委	文科科研費
川崎病の病態における好中球細胞外トラップ(NETs)の関与とその制御機構の解明	竹下 誠一郎	看護学科	1,820,078	補 委	文科科研費
身体組成分析を活用したドライウェイト設定時における共同目標設定効果の研究	椙田 広明	看護学科	1,459,902	補 委	文科科研費
一般病棟における終末期ケアを尊重する組織風土醸成プログラムの構築	伴 佳子	看護学科	287,027	補 委	文科科研費
初めて親となる夫婦のパートナーシップ促進を支援する情報提供プログラムの開発	三上 由美子	看護学科	2,597,723	補 委	文科科研費
重症者支援ネットワークを活用した機能強化型訪問看護教育プログラムの開発研究	小森 直美	看護学科	1,494,242	補 委	文科科研費
孤独死防止へ向けての高齢者の心理特性に着目したアセスメント・ツールの開発	山崎 久美子	看護学科	256,792	補 委	文科科研費
全寮制の大学における髄膜炎菌保菌調査	金山 敦宏	防衛医学研究センター 広域感染症疫学・制御システム研究部門	668,632	補 委	文科科研費
ヒト頭部外傷事例における脳弓下器官損傷の病理組織学的検討	原田 一樹	法医学	1,205,376	補 委	文科科研費
デオキシアデノシンの神経毒性と分解酵素の神経保護作用の解明	太田 宏之	薬理学	2,972,058	補 委	文科科研費
心不全進展過程における腸内細菌の関与	長友 祐司	循環器内科	2,225,997	補 委	文科科研費
メタボリックシンドロームにおける認知機能障害の新規機序解明と予防・治療への応用	石塚 俊晶	薬理学	1,815,716	補 委	文科科研費
子どものグリーフサポートの実践 ～死因とレジリエンスに焦点を当てた検証～	高橋 聡美	看護学科	1,652,807	補 委	文科科研費
iPS細胞から成熟オリゴデンドロサイトへの分化誘導法の確立と髄鞘再生治療への応用	今村 宰	生化学	2,456,934	補 委	文科科研費

計 25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金　額(単位:円)	補助元又は委託元	
磁場を利用した選択的遺伝子導入系、および遺伝子発現操作系の開発	伊達木　穣	生化学	2,597,670	補委	文科科研費
ピオグリタゾンによる貪食細胞機能増強作用の機序解明	中島　正裕	免疫微生物学	1,588,292	補委	文科科研費
腸管内の食事細菌抗原のペプチドトランスポーターによる吸収を標的とした腸炎制御	渡邉　知佳子	内科学	961,019	補委	文科科研費
糖尿病患者の血管内皮障害へ及ぼすグルコサミン修飾の影響と薬物介入への実験的検討	眞崎　暢之	集中治療部	1,225,804	補委	文科科研費
インスリン抵抗性におけるERK2を介した臓器・血管連関の検討	難波　貴之	循環器内科	1,302,502	補委	文科科研費
頭蓋内胚細胞腫瘍に特異的な遺伝子変異の機能解析と新規分子標的治療の開発	富山　新太	脳神経外科	1,784,171	補委	文科科研費
頭頸部癌に対する腫瘍溶解センダイウイルス療法の臨床応用に向けた発展	宇野　光祐	耳鼻咽喉科	1,739,324	補委	文科科研費
侵襲時の生体防御不全対策:PPARを分子標的とした自然免疫応答の制御	宮崎　裕美	防衛医学研究センター 外傷研究部門	2,112,991	補委	文科科研費
妊娠糖尿病女性のセルフケア行動を促進するための周産期ケアプログラムの開発	楠見　ひとみ	看護学科	1,956,766	補委	文科科研費
妊産婦婦の自殺リスク因子の解明と自殺予防プログラムの開発	西岡　笑子	看護学科	2,199,143	補委	文科科研費
災害時の健康危機を支えるヘルス・リスクコミュニケーションのアルゴリズム開発	早野　貴美子	看護学科	1,678,468	補委	文科科研費
microRNAを使用した拘束ストレスとカテコールアミンの心筋障害マーカーの確立	細谷　直	法医学	1,096,816	補委	文科科研費
子育てと介護のダブルケアをしている看護師の健康に関する研究	永井　菜穂子	看護学科	1,137,648	補委	文科科研費
青色光照射による網膜色素上皮障害の詳細なメカニズムの解明	高山　圭	眼科学	1,215,656	補委	文科科研費
パーキンソン病予防に向けた尿酸の神経保護的作用を解明する分子遺伝疫学解析	松尾　洋孝	分子生体制御学	407,492	補委	文科科研費
医療ニーズの高い在宅療養小児を対象にした訪問診療看護師制度の創設に関する研究	村松　真千子	看護学科	683,288	補委	文科科研費
動脈硬化の発症に寄与する内膜アポトーシスの検討	藤本　典宏	皮膚科学	2,983,678	補委	文科科研費
ICU入室中の気管挿管患者における主観的な睡眠評価と睡眠促進支援プログラムの開発	村田　洋章	看護学科	1,348,907	補委	文科科研費
光生体イメージングによる生体モデリングを用いたオプトジェネティクス制御の高精度化	大川　晋平	医用工学	1,584,885	補委	文科科研費
「眩しさ」を生みだす痛み成分の神経機構に関する研究	田代　晃正	生理学	1,252,556	補委	文科科研費
ヒト腸管スピロヘータ症の病態解析	緒方　衝	臨床検査医学	2,087,365	補委	文科科研費
ヒト大腸癌におけるADAM分子発現と浸潤・転移における役割解析	望月　早月	外科学	1,200,000	補委	文科科研費
組織酸素飽和度イメージング機能付き超音波診断装置の実用化に向けた包括的研究	山崎　民大	外科学	2,400,000	補委	文科科研費
ギラン・バレー症候群を中心とした免疫性神経疾患の新規タンパク抗原と病的意義の解明	小牟田　縁	防衛医学研究センター 生体情報・治療システム研究部門	867,339	補委	文科科研費
うつ病、双極性障害における発達段階のストレス暴露のストレス応答制御に与える影響	戸田　裕之	精神科学	1,293,953	補委	文科科研費

計　25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	補助元又は委託元	
肝星細胞分泌因子に着目した、肥満関連肝がんの病態機序の解明と、新たな治療法の開発	冨田　謙吾	病院　内科	2,911,208	補委	文科科研費
C-peptideのシグナリング解明と心血管病態治療への応用	井戸　康夫	内科学	1,559,860	補委	文科科研費
骨髄線維症におけるfibrocyteの線維化・髄外造血誘導機構の解析	木村　文彦	内科学	2,183,367	補委	文科科研費
直腸癌術前化学放射線療法の症例選別と効果の検証	神藤　英二	病院　外科	1,583,780	補委	文科科研費
疼痛の神経メカニズムにおけるERK細胞内情報伝達機構の役割に関する包括的研究	川口　慎憲	病院　麻酔科	1,806,452	補委	文科科研費
高気圧水素療法による二次性脳損傷抑制効果の検討	戸村　哲	防衛医学研究センター 外傷研究部門	1,914,388	補委	文科科研費
軽症頭部外傷モデルにおける酸化ストレスと神経炎症の時空間特性の解析	川内　聡子	防衛医学研究センター 生体情報・治療システム研究部門	1,529,657	補委	文科科研費
ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬の作用増強による膀胱癌新規治療法の開発	佐藤　全伯	泌尿器科学	1,014,635	補委	文科科研費
耳鳴に対する新規治療法開発と、その大脳辺縁系への影響の解析	水足　邦雄	耳鼻咽喉科	1,067,682	補委	文科科研費
頭頸部癌頸部リンパ節転移制御を目指した機能温存治療法の開発と臨床応用に向けた発展	荒木　幸仁	耳鼻咽喉科学	2,260,932	補委	文科科研費
加齢涙腺の組織幹細胞賦活化による器官再生法に関する細胞生物学的研究	伊藤　正孝	再生発生学	1,055,665	補委	文科科研費
本態性高血圧発症への頸動脈小体由来ノルアドレナリンの役割	加藤　弘毅	動物実験施設	1,291,590	補委	文科科研費
Mesothelinをターゲットとした抗体治療の臨床応用	永生　高広	外科学	827,940	補委	文科科研費
血小板代替物による人工心肺後凝固障害の制御	石田　治	病院　外科	1,368,228	補委	文科科研費
麻酔薬の作用機序におけるGABA受容体とERK経路の役割に関する研究	荒木　義之	防衛医学	1,364,256	補委	文科科研費
がん罹患後に離職した就労世代のがん患者に対する支援プログラムの開発	小林　成光	看護学科	958,721	補委	文科科研費
医療制度の制度発展過程に関する比較研究	金子　雅彦	社会科学	780,000	補委	文科科研費
照葉樹林帯の生活科学ーミャンマー山岳地域チン州における資源利用特性と植生の関係ー	朝比奈　はるか	救急部	1,950,000	補委	文科科研費
臨床現場における人の共感特性と心理的ストレスに関する研究	長峯　正典	防衛医学研究センター 行動科学研究部門	1,430,000	補委	文科科研費
核酸小分子リガンドを用いた電気化学的な遺伝子検出法の開発に関する研究	武井　史恵	化学	1,400,000	補委	文科科研費
食品乳化剤による腸炎誘発機序の解明ー炎症性腸疾患の治療へ向けてー	栗原　千枝	内科学	1,690,000	補委	文科科研費
LPSプレコンディショニングによるマラリア重篤化抑制手法の確立	小野　岳史	国際感染症学	1,000,000	補委	文科科研費
血小板代替リポソームによって炎症を制御して外傷性凝固障害を治療する	萩沢　康介	生理学	1,300,000	補委	文科科研費
iPS細胞を用いた、ミトコンドリア分裂傷害によるLeigh症候群の機序の解明	松本　浩	小児科学	1,100,000	補委	文科科研費
プロバイオティクス摂取が腸管免疫と腸内細菌のトランスジェネレーションへ及ぼす影響	岡田　義清	内科学	800,000	補委	文科科研費

計　25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	補助元又は委託元	
免疫反応と皮膚生理機能異常からみた痒疹の病態解析と治療に関する研究	佐藤　貴浩	皮膚科学	1,300,000	補委	文科科研費
腰痛症の原因となる器質的疾患の病態解明とそれに基づく新たな治療戦略の確立	千葉　一裕	整形外科	1,500,000	補委	文科科研費
筋恒常性維持と筋変性のメカニズム解明	堀内　圭輔	整形外科	1,300,000	補委	文科科研費
思春期特発性側湾症関連遺伝子LBX1の機能解析	今林　英明	整形外科	1,200,000	補委	文科科研費
腎細胞癌の早期診断及び病勢を反映するバイオマーカーの同定と臨床応用に向けた研究	伊藤　敬一	泌尿器科学	1,200,000	補委	文科科研費
ゲノム編集技術を用いた1,2-ジクロロプロパンの毒性機序の解明	吉岡　範幸	衛生学公衆衛生学	1,500,000	補委	文科科研費
フッ素曝露の神経系への影響:感受性を考慮した検討	角田　正史	衛生学公衆衛生学	700,000	補委	文科科研費
軽症脳卒中患者の再発予防へのセルフマネジメント自己評価尺度の開発および介入	内田　香里	看護学科	1,170,000	補委	文科科研費
一般病院がん患者に対する看護師が行うディグニティセラピーの効果と紹介基準の検討	伴　佳子	看護学科	1,560,000	補委	文科科研費
職域におけるヘルスリテラシーを活用した生活習慣予防教育プログラムの開発	上野　美紀	看護学科	1,430,000	補委	文科科研費
心不全の緩和ケアに関する研修プログラムの効果検証	松井　美帆	看護学科	1,300,000	補委	文科科研費
経口的喉頭機能温存手術後の音声・嚥下機能評価と機能障害予防への展開	谷合　信一	耳鼻咽喉科学	1,200,000	補委	文科科研費
ハイパースペクトル光音響顕微鏡の開発及び皮膚がん広がり診断への応用	平沢　壮	医用工学	1,600,000	補委	文科科研費
海洋バイオマス資源を用いた災害環境衛生材料の開発	佐藤　洋子	防衛医学研究センター 医療工学部門	1,700,000	補委	文科科研費
細胞自律的な軸索投射メカニズムの解明	東　誉人	解剖学	1,200,000	補委	文科科研費
プロスタグランジンE3による慢性炎症の制御機構の解明	石渡　遼	生理学	1,200,000	補委	文科科研費
レーザーによる近赤外光照射の免疫賦活化効果を用いた舌下粘膜ワクチンへの応用	君塚　善文	感染症・呼吸器内科	1,300,000	補委	文科科研費
精巣胚細胞腫瘍、特に非セミノーマの腫瘍進展に関わる分子遺伝子学的因子の網羅的検索	宮居　弘輔	臨床検査医学	2,000,000	補委	文科科研費
iPS細胞を用いたDNM1-L遺伝子変異による心筋症発症機構の解明と治療への応用	大澤　麻登里	小児科学	1,900,000	補委	文科科研費
卵巣細胞癌に対するGradind systemの構築について	宮本　守員	産婦人科学	2,500,000	補委	文科科研費
Egb761の創傷軽減・治癒促進効果についての研究	會沢　哲士	形成外科	1,200,000	補委	文科科研費
一般病棟看護師を対象とした多量飲酒者へのケア実践ガイド作成と有用性の検証	内野　小百合	看護学科	400,000	補委	文科科研費
終末期がん患者の家族に焦点を当てた退院支援プログラムの開発	大園　康文	看護学科	1,300,000	補委	文科科研費
依存症予備軍に対する保健師向け行動変容面接術教育プログラム開発と評価	瀬在　泉	看護学科	1,000,000	補委	文科科研費
科学技術と実践情報を統合した終末期患者の予後予測指標の開発	石川　孝子	看護学科	700,000	補委	文科科研費

計　25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	補助元又は委託元	
人工肛門委縮腸管へのシンバイオティクス投与による腸管免疫賦活に関する臨床応用	岡本　耕一	外科学	600,000	補 委	文科科研費
三次元培養皮膚の光照射による分化の制御とそれに伴う分光学的特性変化に関する研究	角井　泰之	防衛医学研究センター 生体情報・治療システム研究部門	1,800,000	補 委	文科科研費
膵癌の早期診断及び術後予後マーカーの同定とその臨床応用に向けた研究	高尾　幹也	分子生体制御学	1,100,000	補 委	文科科研費
微生物マイクロ構造を鋳型とする微小めっき技術と応用	鎌田　香織	化学	2,300,000	補 委	文科科研費
分子遺伝疫学解析によるJR血液型の全容解明と痛風の個別化予防に関する研究	松尾　洋孝	分子生体制御学	3,770,000	補 委	文科科研費
独自の金属ナノ粒子合成技術を利用した医療従事者用の機能性材料の創成	中村　伸吾	防衛医学研究センター 医療工学研究部門	2,340,000	補 委	文科科研費
癌転移検査法としてのin vivoリキッドバイオプシーの創成	石原　美弥	医用工学	2,000,000	補 委	文科科研費
19F-MRIによる診断と治療が一体となった次世代型ナノメディシンの創製	山田　直生	生理学	1,900,000	補 委	文科科研費
アトピー性皮膚炎・痒疹の痒み発生機序の解明:IL-31産生マクロファージの役割	端本　宇志	皮膚科学	182,676	補 委	文科科研費
ノロウイルスによる健康被害実態及び食品寄与率の推計に関する研究	金山　敦宏	防衛医学研究センター 広域感染症疫学・制御システム研究部門	3,000,000	補 委	内閣府 競争的資金
実際の使用条件下における化学防護手袋の浸透性の調査	岩澤　聡子	衛生学公衆衛生学	3,956,000	補 委	厚労省 競争的資金
計			195,864,864		

合計　111件

(注) 1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Chiba K	整形外科	Overview of Laminoplassty.	OPLL Ossification of the posterior longitudinal ligament. 3rd ed. (eds. Okawa A, Matsumoto M, Iwasaki M, Kawaguchi Y), Springer Nature, Singapore, pp 175-180, 2020.	Book Chapter
2	Nakayama D	整形外科	Expansile calcific myonecrosis arising in the lower leg: A case report and recommendation for treatment.	J Orthop Sci. 2019, Dec 20.	Case report
3	Mizuno T	整形外科	Spontaneous regression of myxofibrosarcoma of the thigh after open biopsy.	Case Rep Oncol. 2019, May 16.	Case report
4	Susa M	整形外科	Rice bodies in a patient with oligoarticular juvenile idiopathic arthritis.	J Rheumatol. 2019, Sep.	Case report
5	堀越英之	膠原病・アレルギー内科	18F-fluorodeoxyglucose-psitron emission tomography/computed tomography for the diagnosis of polymyalgia-like illness: a retrospective study.	BMC Rheumatol. 2020 Apr 24;4:21. on line	Original Article
6	Kosuke Miyai, Keiichi Ito, Kuniaki Nakanishi, et al	臨床検査医学／検査部	Cell-to-cell variation of chromosomal number in the adult testicular germ cell tumors: a comparison of chromosomal instability among histological components and its putative role in tumor progression	Virchows Arch. 2019 Jun; 474: 711-20	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
7	Kosuke Miyai, Ayako Mikoshi, Fumiko Hamabe, et al	臨床検査医学／検査部	Histological differences in cancer cells, stroma, and luminal spaces strongly correlate with in vivo MRI-detectability of prostate cancer	Mod Pathol. 2019 Oct; 32: 1536-43	Original Article
8	Okano T, Imai K, Tsujita Y, et al.	小児科	Hematopoietic stem cell transplantation for progressive combined immunodeficiency and lymphoproliferation in patients with activated phosphatidylinositol-	J Allergy Clin Immunol. 2019, 143: 266-275.	Original Article
9	Chida-Nagai A, Shintani M, Sato H, et al.	小児科	Role of BRCA1-associated protein (BRAP) variant in childhood pulmonary arterial hypertension.	PLoS One. 2019, 14:e0211450.	Original Article
10	Iwasawa S, Yanagi K, Kikuchi A, et al.	小児科	Recurrent de novo MAPK8IP3 variants cause neurological phenotypes.	Ann Neurol. 2019, 85: 927-933.	Original Article
11	Honda M, Asano T, Takajo D, et al.	小児科	Cytokine Analysis of Eosinophilic Ascites in Systemic Lupus Erythematosus.	Indian J Pediatr. 2019, 87:322.	Original Article
12	Yoshida Y, Takeshita S, Kawamura Y, et al.	小児科	Enhanced formation of neutrophil extracellular traps in Kawasaki disease.	Pediatr Res. 2020, 87(6):998-1004.	Original Article
13	Dezfouli M, Bergström S, Skattum L, et al.	小児科	Newborn Screening for Presymptomatic Diagnosis of Complement and Phagocyte Deficiencies.	Front Immunol. 2020, 11:455.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
14	Kanai T, Takeshita S, Kawamura Y, et al.	小児科	The Combination of the Neutrophil-To-Lymphocyte and Platelet-To-Lymphocyte Ratios as a Novel Predictor of Intravenous Immunoglobulin Resistance in Patients With Kawasaki Disease: A Multicenter Study.	Heart Vessels. 2020, 35:1463-1472.	Original Article
15	Matsumoto K, Hoshino A, Nishimura A, et al.	小児科	DNA ligase IV deficiency identified by chance following vaccine-derived rubella virus infection.	J Clin Immunol. 2020, 40:1187-1190.	Original Article
16	D Takajo, H Matsumoto, T Noguchi, et al	小児科	New Variant Mutation of Glucosylceramidase Beta (GBA) and Early Enzyme Replacement Therapy for Neuronopathic Gaucher Disease: A Case Report and	Iran J Pediatr 2020, 30: e98996.	Case report
17	Maki Y, Kimizuka Y, Sasaki H, et al.	内科学(感染症・呼吸器)	Hepatitis A virus-associated fulminant hepatitis with human immunodeficiency virus coinfection.	Journal of Infection and Chemotherapy 2020; 26: 873-881	Case report
18	Sano T, Kimizuka Y, Fujikura Y, et al.	内科学(感染症・呼吸器)	COVID-19 in older adults: Retrospective cohort study in a tertioary hospital in Japan.	Geriatrics Gerontology International 2020; 20: 1044-1049	Original Article
19	Miyata J, Ogawa T, Tagami Y, et al.	内科学(感染症・呼吸器)	Serum soluble interleukin-2 receptor level is a predictive marker for EBUS-TBNA-based diagnosis of sarcoidosis.	Sarcoidosis vasculitis and Diffuse Lung Diseases 2020; 37: 8-16	Original Article
20	木村文彦	血液内科	ABO blood type incompatibility lost the unfavorable impact on outcome in unrelated bone marrow transplantation	Bone Marrow Transplant. 2019 Oct; 54:1676	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
21	前川隆彰	血液内科	Increased SLAMF7high monocytes in myelofibrosis patients harboring JAK2V617F provide a therapeutic target of elotuzumab	Blood. 2019 Sep; 134: 814	Original Article
22	高田耕平	血液内科	EBウイルス感染細胞由来のVEGFにより全身性浮腫を呈したと示唆された血管免疫芽 球性T細胞リンパ腫	臨床血液. 2019 Dec; 60: 1647	Case report
23	前川隆彰	血液内科	骨髄線維症におけるfibrocyte ーその役割と制御による新規治療へのアプローチー	臨床血液. 2020 Jan; 61: 3	Review
24	Takahiro Sakamoto, Miyamoto Morikazu, Kono Takako, et al	産科婦人科	Endometrial dedifferentiated carcinoma:A pathological review at a single institution and systematic review of published literature.	European Journal of Gynaecological Oncology 2020 Feb. 41(2):163-166	Case report
25	Miyamoto Morikazu, Masashi Takano, Tsuda Hitoshi, et al	産科婦人科	Zone Formation of Lymphocyte Infiltration at the Invasive Front Results in the Prolonged Survival of Individuals With Endometrial Serous Carcinoma and Endometrioid Carcinoma With Serous Component	Anticancer Res 2019 Apr. 39(4) :.2085-2089	Original Article
26	Aoyama Tadashi, Masashi Takano, Miyamoto Morikazu,et al	産科婦人科	Pretreatment Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio Was a Predictor of Lymph Node Metastasis in Endometrial Cancer Patients	Oncology 2019 May 96(5) :259-267	Original Article
27	Hiroaki Soyama, Miyamoto Morikazu, Masashi Takano,et al	産科婦人科	Response to correspondence "Prophylactic use of Bakri balloon for placenta previa surgery:A simple procedure to prevent balloon prolapse".	Taiwan J Obstet Gynecol 2019 May 58(3) :440	Letter

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
28	Hiroki Ishibashi, Miyamoto Morikazu, Aoyama Tadashi, et al	産科婦人科	The effect of six scheduled cycles of neoadjuvant chemotherapy on prognosis in advanced ovarian cancer	European Journal of Gynaecological Oncology 2020 Mar. 41(3):386-390	Original Article
29	Masaya Nakatsuka, Miyamoto Morikazu, Hiroaki Soyama,et al.	産科婦人科	A case of spontaneous ovarian hyperstimulation syndrome after vaginal delivery	J Obstet Gynecol 2019 Jul. 39(7):.1022	Case report
30	Takasaki Kazuki, Miyamoto Morikazu, Masashi Takano,	産科婦人科	Thrombotic events induce the worse prognosis in ovarian carcinomas and frequently develop in ovarian clear cell carcinoma.	Journal of Clinical Oncology 2019 Oct. 24(10):.1273-1283	Original Article
31	東谷　卓美	集中治療部	Vascular aging detected by peripheral endothelial dysfunction is associated with electrocardiogram-derived physiological aging.	J AmHeart Assoc. In press.	Original Article
32	東谷　卓美	集中治療部	Prognostic Impact of Coronary Flow Reserve and Hyperemic Microvascular resistance on Composite Major Adverse Cardiovascular Events.	Eurointervention. Inpress.	Original Article
33	東谷　卓美	集中治療部	Coronary Perivascular Epicardial Adipose Tissue and Major Adverse Cardiovascular Events After ST Segment-Elevation Myocardial Infarction.	Atherosclerosis.2020;302: 27-35.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
34	東谷　卓美	集中治療部	Elevated Plasma Homocysteine Levels Are Associated with Impaired Peripheral Microvascular Vasomotor response.	Int J Cardiol Heart Vasc.2020;28:100515.	Original Article
35	東谷　卓美	集中治療部	Incremental Prognostic Impact of Peripheral Microvascular Endothelial Dysfunction on the Development of Ischemic Stroke.	J Am Heart Assoc.2020;9:e015703.	Original Article
36	東谷　卓美	集中治療部	Coronary Artery Disease Is Associated with an Altered Gut Microbiome Composition.	PLoS One.2020;15:e0227147	Original Article
37	東谷　卓美	集中治療部	Assessment of Peripheral Endothelial Function Predicts Future Risk of Solid-Tumor Cancer.	Eur J Prev Cardiol.2020;27:608-618.	Original Article
38	東谷　卓美	集中治療部	Impact of Oxidative Posttranslational Modifications of SERCA2 on Heart Failure Exacerbation in Young Patients with Non-Ischemic Cardiomyopathy: A Pilot Study.	Int J Cardiol Heart Vasc.2019;26:100437.	Original Article
39	眞崎　暢之	集中治療部	O-GlcNAcylation Mediates Glucose-Induced Alterations in Endothelial Cell Phenotype in Human Diabetes Mellitus	J Am Heart Assoc.2020;9:e014046	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
40	眞崎　暢之	集中治療部	Endothelial Insulin Resistance of Freshly Isolated Arterial Endothelial Cells From Radial Sheaths in Patients With Suspected Coronary Artery Disease	J Am Heart Assoc.2019;8:e010816	Original Article
41	Shinichi Taguchi	心臓血管外科	Comprehensive review of the epidemiology and treatments for malignant adult cardiac tumors.	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2018;66:257-262.	Review
42	端本宇志	皮膚科	Prurigo successfully treated with duloxetine hydrochloride	Australas J Dermatol 60 (3): 237-239, 2019.	Case report
43	端本宇志	皮膚科	Amphiregulin from basophils amplifies basophil-mediated chronic skin inflammation	J Invest Dermatol 139 (8): 1834-1837, 2019	Original Article
44	佐藤貴浩	皮膚科	The contribution made by skin-infiltrating basophils to the development of alpha gal syndrome	Allergy 74(9): 1805-1807, 2019	Original Article
45	端本宇志	皮膚科	Pruritus in ordinary scabies: IL-31 from macrophages induced by overexpression of TSLP and periostin	Allergy 74(9): 1727-1737, 2019	Original Article
46	石川貴裕	皮膚科	Increased β-endorphin and autotaxin in petients with prurigo	J Cutan Immunol Allergy 2(4): 94-101, 2019	Original Article
47	石川貴裕	皮膚科	Intercellular IgA dermatosis aggravated during pregnancy	Eur J Dermatol 29(5): 551-552, 2019	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
48	山﨑雄貴	皮膚科	Circumscribed palmar hypokeratosis with sweating disturbance: successful treatment with a heparinoid-containing moisturizer	Eur J Dermatol 29(5): 559-561, 2019	Case report
49	Ito K	泌尿器科	Recent advances in the systemic treatment of metastatic non-clear cell renal cell carcinomas.	Int J Urol. 2019 Sep	Review
50	Horiguchi A	泌尿器科	Is Primary Realignment Appropriate for the Initial Management of Straddle Injuries to the Bulbar Urethra?	Urology. 2020 Feb	Original Article
51	Horiguchi A	泌尿器科	Evaluation of the effect of urethroplasty for anterior urethral strictures by a validated disease-specific patient-reported outcome measure	World J Urol. 2019 Apr	Original Article
52	Horiguchi A	泌尿器科	Surgical and patient-reported outcomes of urethroplasty for bulbar stricture due to a straddle injury	Urology. 2020 Jan	Original Article
53	Kuroda K	泌尿器科	Chronic kidney disease and positive surgical margins as prognosticators for upper urinary tract urothelial carcinoma patients undergoing radical nephroureterectomy	Mol Clin Oncol. 2019 May	Original Article
54	Horiguchi A	泌尿器科	Single-surgeon series of delayed anastomotic urethroplasty for pelvic fracture urethral injury: an analysis of surgical and patient-reported outcomes of a 10-year experience in a Japanese referral	World J Urol. 2019 Apr	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
55	Ito K	泌尿器科	Impact of inflammatory marker levels one month after the first-line targeted therapy initiation on progression-free survival prediction in patients with metastatic clear cell renal cell carcinoma.	Jpn J Clin Oncol. 2019 Jan	Original Article
56	Horiguchi A	泌尿器科	Usefulness of a high-speed surgical air drill in pubectomy during delayed anastomotic urethroplasty for pelvic fracture urethral injury. Horiguchi A, Ojima K, Shinchi M, Hirano Y, Hamamoto K, Ito	Int J Urol. 2020 Aug	Original Article
57	Ojima K	泌尿器科	Is Primary Realignment Appropriate for the Initial Management of Straddle Injuries to the Bulbar Urethra?	Urology. 2020 Feb	Original Article
58	Kuroda K	泌尿器科	Effect of increased expression of both ras-related C3 botulinum toxin substrate 1 and p21-activated kinase 1 in patients with N0M0 upper urinary tract urothelial carcinoma and cancer-free surgical margins.	Jpn J Clin Oncol. 2020 Apr	Original Article
59	Ito K	泌尿器科	Difficulty in differential diagnosis for renal cancer with microscopic papillary architecture: overlapped pathological features among papillary renal cell carcinoma (RCC), mutinous tubular and spindle cell carcinoma, and unclassified RCC. Lessons from a Japanese multicenter study.	Jpn J Clin Oncol. 2020 Oct	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
60	Kuroda K	泌尿器科	Effect of continuous saline bladder irrigation with concomitant single instillation of chemotherapy after transurethral resection on intravesical recurrence in patients with non-muscle-invasive	Mol Clin Oncol. 2020 Sep	Original Article
61	Isono M	泌尿器科	Rapid progression of mucinous tubular and spindle cell carcinoma of the kidney without sarcomatoid changes: A case report.	Urol Case Rep. 2020 Apr	Case report
62	Okubo K	泌尿器科	Fluvastatin potentiates anticancer activity of vorinostat in renal cancer cells	Cancer Sci. 2020 Jan	Original Article
63	Okubo K	泌尿器科	Lopinavir-Ritonavir Combination Induces Endoplasmic Reticulum Stress and Kills Urological Cancer Cells.	Anticancer Res. 2019 Nov	Original Article
64	Okubo K	泌尿器科	Delanzomib Interacts with Ritonavir Synergistically to Cause Endoplasmic Reticulum Stress in Renal Cancer Cells	Metformin Augments Panobinostat's Anti-Bladder Cancer Activity by Activating AMP-Activated Protein Kinase	Original Article
65	Masato Yamadera	下部消化管外科	Differential survival benefits of 5-fluorouracil-based adjuvant chemotherapy for patients	Diseases of colon & Rectum 201911	Original Article
66	Ishibashi Yusuke	上部消化管外科	Prognostic significance of systemic inflammatory markers in esophageal cancer: Systematic review and meta-analysis.	Ann Gastroenterol Surg 201910	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
67	Keita Kouzu	上部消化管外科	Risk factors for nonalcoholic fatty liver disease after gastrectomy for gastric cancer	Gastric Cancer 201909	Original Article
68	Ueno Hideki	下部消化管外科	A Multicenter Study of the Prognostic Value of Desmoplastic Reaction Categorization in Stage II Colorectal Cancer	Am J Surg Pathol 201908	Original Article
69	Eiji Shinto	下部消化管外科	Marked impact of tumor location on the appropriate cutoff values and the prognostic significance of the lymph node ratio in stage Ⅲ colon cancer: a multi-institutional retrospective	Journal of Gastroenterology 201907	Original Article
70	Hideki Ueno	下部消化管外科	Prospective Multicenter Study on the Prognostic and Predictive Impact of Tumor Budding in Stage II Colon Cancer: Results From the SACURA Trial	Journal of Clinical Oncology 201906	Original Article
71	Kishi Yoji	肝胆膵外科	Feasibility of "Watch-and-Wait" Management before Repeat Hepatectomy for Colorectal Liver Metastases	Digestive surgery 201904	Original Article
72	Iwasaki Toshimitsu	肝胆膵外科	Reduction of intrapancreatic neural density in cancer tissue predicts poorer outcome in pancreatic ductal carcinoma	Cancer Sci 201904	Original Article
73	Yamagishi Yoji	乳腺内分泌外科	Dual time point 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography fusion imaging (18F-FDG PET/CT) in primary breast cancer	BMC Cancer 201911	Original Article

計73件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別

(注) 1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3　「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4　「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5　「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例:　Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9　/　Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6　「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計　件

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

（様式第 3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	(有)・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	(有)・無
・　手順書の主な内容 申請手続、委員会審査及び分科会審査手続、審査結果の通知	
③　倫理審査委員会の開催状況	年11回

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
　　2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	(有)・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	(有)・無
・　規定の主な内容 利益相反の審議をするための委員会（委員の任期、決議方法）、申請手続、判定結果の通知要領及び守秘義務等	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年０回 事前確認によって明らかに利益相反が認められないと判定されたため

（注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年１回
・研修の主な内容 日本学術振興会「研究倫理eラーニング」	

（注）前年度の実績を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

医師である幹部自衛官（医官）に対して、国際貢献や災害時活動など国家的緊急事態における突発的な疾病・傷害に対する幅広い初期診療能力を習得させることを目標としている。災害初期診療における重症外傷患者に対して系統的な理論に基づいた診断と初期治療を迅速かつ的確に行う能力を身につけるとともに大量傷者発生に対応できる基本的能力を獲得させる。また専門領域以外の領域における初期診療に必要な基本的な知識を修得させ、積極的に救急医療及び災害医療の研修機会を持たせる。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	６２人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
足立　健	内科	教授	３１年	
熊谷　裕生	内科	教授	３８年	
穂刈　量太	内科	教授	２９年	
川名　明彦	内科	教授	３６年	
木村　文彦	内科	教授	３６年	
池脇　克則	内科	教授	３６年	
上野　秀樹	外科	教授	３０年	
田口　眞一	外科	教授	３６年	
吉野　相英	精神科	教授	３６年	
野々山　恵章	小児科	教授	３７年	
千葉　一裕	整形外科	教授	３７年	
和田　孝太郎	脳神経外科	教授	３３年	
佐藤　貴浩	皮膚科	教授	３５年	
伊藤　敬一	泌尿器科	教授	３９年	
髙野　政志	産科婦人科	教授	２８年	
竹内　大	眼科	教授	３１年	
塩谷　彰浩	耳鼻咽喉科	教授	３３年	
新本　弘	放射線科	教授	４１年	
池田　健彦	麻酔科	教授	３０年	
池内　尚司	救急救命センター	教授	４０年	
斎藤　大蔵	外傷研究部門	教授	３７年	
清澤　智晴	形成外科	教授	３８年	
松熊　晋	検査部	教授	３４年	
小林　龍生	リハビリテーション部	教授	３９年	
田中　祐司	総合臨床部	教授	３６年	
熊谷　裕生	輸血・血液浄化療法部	教授	３８年	

（注）１　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）２　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）３　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1．計画　②．現状
管理責任者氏名	病院長　淺野　友彦
管理担当者氏名	運営企画課長　古川　竹利　運営支援課長　渡邉　孝 材料部長　田中　良弘　医療情報部長　清澤　智晴　薬剤部長　小杉　隆祥 医療安全推進室長　髙畑　りさ　感染対策室長　藤倉　雄二

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	運営企画課	カルテ等の病歴資料は、医療情報部で一括管理している。外来カルテは診療科毎、入院カルテは入院期間毎に作成され、電算機に登録されており、保存期間は10年である。医療記録利用規則により院外への貸し出しは禁止している。
		各科診療日誌	医療情報部	
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	運営支援課	文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。
		高度の医療の提供の実績		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績		
		高度の医療の研修の実績		
		閲覧実績	運営支援課	
		紹介患者に対する医療提供の実績		
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	運営支援課、薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室	文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室	文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況		
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況		
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況		
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況		
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況		
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		
		医療機器安全管理責任者の配置状況	材料部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況		
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況		
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進室	文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進室	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況		
		医療安全管理部門の設置状況		
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況		
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部	
		監査委員会の設置状況	医療安全推進室	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況		
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況		
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	運営支援課 医療安全推進室	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進室	
		職員研修の実施状況		
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況		
		管理者が有する権限に関する状況	運営企画課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況		
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1．計画　　②．現状	
閲覧責任者氏名	病院長　淺野　友彦	
閲覧担当者氏名	各診療科部長・運営支援課長・運営企画課長・材料部長・薬剤部長	
閲覧の求めに応じる場所	病院第３会議室	
閲覧の手続の概要 閲覧者の閲覧希望の内容に応じて、該当する各閲覧担当者は諸記録を所定の閲覧場所へ集積して、閲覧に供する。		

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0件
閲覧者別	医師	延　0件
	歯科医師	延　0件
	国	延　0件
	地方公共団体	延　0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	㊒・無
・ 指針の主な内容： （１）安全管理システムの構築 （２）医療従事者の研鑽 （３）インシデント・アクシデントレポートの推進 （４）安全管理組織の充実 （５）職員教育・研修の充実 （６）医療事故発生時の対応方針 （７）患者相談窓口の設置 （８）高難度新規医療技術等に関する事項 （９）未承認新規医薬品等に関する事項 （10）医療安全管理マニュアルの改訂	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ ㊒・無 ） ・ 開催状況：年 12回 ・ 活動の主な内容： （１）病院内における安全管理のための指針の整備に関すること （２）病院内における安全管理のための医療事故の報告要領に関すること （３）インシデント報告及びアクシデント報告に基づく医療事故防止に必要な方策の策定に関すること （４）医療事故発生時の対応要領に関すること （５）安全管理体制確保のために必要な職員の教育研修制度に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 40回
・ 研修の内容（すべて）： （１） 新着任者、中途採用者に対する当院の医療安全管理体制についてのオリエンテーション（全職種）40回／年 （２） 新入職者（看護師）に対するオリエンテーション 6回／年 （３） 産児休業後復帰者に対するオリエンテーション 2回／年 （４） 当院におけるリスクマネージメントについて（初任実務研修医、専門研修医、研究科）計５回／年 （５） 看護管理者のための安全管理教育 1回／年 （６） 看護部研修生に対するオリエンテーション 1回／年 （７） KYT、インシデントレポート入力講習 1回／年 （８） 看護学生に対する医療安全管理体制についての卒前教育 １回／年 （９） 全職員対象医療安全・感染対策講習 ２回／年 （10） コメディカル対象のBLS講習会 1回／年	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ ㊒・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： （１） 院内全死亡例の報告および死亡例カンファレンス実施の義務化 （２） オカレンス（合併症等）事例に係わる報告の義務化 （３） 院内における暴言・暴力に係わる報告制度 （４） 安全対策プロジェクトチームにおけるインシデント事例の再発防止策の検討及び検証のための院内ラウンドの実施 （５） 上記１）～４）の安全管理委員会、部長会での情報の共有と周知の実施	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： 院内感染の未然防止、発生時の迅速適切な対処を定めた基本方針、感染対策委員会、感染対策室及び感染管理チームの設置、各診療科等の感染対策管理のための責任者の配置、感染対策マニュアルの整備、院内感染発生時の対処、各種報告の義務、職員研修の実施及び患者等との情報共有	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
・ 活動の主な内容： (1) 院内感染対策に関すること (2) 院内感染管理体制に関すること (3) 集団発生するおそれのある感染症の対策に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 12回
・ 研修の内容（すべて）： (1) 感染対策研修の実施 (2) 周術期抗菌薬適正使用への取り組み (3) 院外講師を招聘し、医療関連感染対策講習会を開催 (4) 採用時オリエンテーション (5) 手指衛生と個人防護具着脱について部署別研修	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ (有)・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 携帯版の感染対策マニュアルを作成し全職員に配布、携帯を義務付 (2) イベント発生に即応した薬剤耐性菌やインフルエンザ等に関する職員教育の実施 (3) ＡＴＰ拭き取り検査器等を使用した実地指導の実施 (4) 反復したラウンドを実施し遵守状況を数値可視化 (5) 部署毎に手指衛生使用量を計測し、1入院患者1日あたりの手指衛生回数をフィードバック (6) 蓄尿の届け出、許可制を導入 (7) 携帯用手指衛生剤の導入 (8) 抗菌薬使用状況の把握、抗菌薬適正使用の推進 (9) 血液培養サーベイランスの実施	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年８回

・ 研修の主な内容：
（１）ＮＳＴ講習看護職員初任者研修：薬剤部業務について理解する
（２）看護職員初任者研修：薬剤の取り扱い
（３）看護師オリエンテーション(2回)：
（４）精神科病棟における薬剤師の役割～精神科用剤の処方について～
（５）研修医オリエンテーション：オーダリングシステム教育～医療事故を起こさないために～
（６）専門研修医師オリエンテーション（２回）：オーダリングシステム教育～医療事故を起こさないために～

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

・ 手順書の作成　（(有)・無）
・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：

(1) 医薬品の選定
(2) 医薬品管理
(3) 調剤
(4) 薬剤管理指導業務
(5) 医薬品情報
(6) 地域薬剤師会との連携

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医薬品に係る情報の収集の整備　（(有)・無）
・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：

【収集方法】
① 製薬会社医薬品情報担当者からの情報収集
② 医薬品安全対策情報（DSU）からの情報収集
③ PMDA、日本医療機能評価機構のHPからの情報収集　等

【周知方法】
① 院内メール、文書による配布、医療用端末における「掲示板」への掲示、薬剤部DIニュース

【その他の改善のための方策の主な内容】
② オーダリングおよび薬剤部門システムを利用した薬用量チェックの設定
③ 薬剤部薬品棚の表示および調剤手順の見直し
④ 採用医薬品の見直し

【未承認等の事例】
【適応外】軟骨肉腫に対するパゾパニブ(ヴォトリエント錠)の投与　他
【禁忌】カルバペネム系抗菌薬とバルプロ酸Naの併用

・ その他の改善のための方策の主な内容：

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年３８回
・ 研修の主な内容： （１）新着任医師、看護師に対する各機器操作と安全管理 （２）使用者に対する機器操作と安全管理 （３）機器導入時の操作法と安全管理 （４）使用現場巡回安全管理指導	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定　（ (有)・無 ） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置をはじめとする機器について、日常点検、定期点検を院内各部で分担又は部外委託で実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備　（ (有)・無 ） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 使用事例なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療端末掲示板から閲覧できる形の安全管理ガイドラインを作成し方針を示しているほか、リンク形式で添付文、マニュアル、研修内容、点検計画等の閲覧ができるようにしている。 また、院内メールを用いて随時安全情報を発信している。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無

・責任者の資格（医師・歯科医師）
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況

医療安全管理責任者が医療安全管理部門の管理を行うとともに、1回／週管理者に対して医療安全管理部門とともに安全に関する報告を実施している。また、安全管理委員会委員長として、委員会を開催し、各責任者からの報告を受け指導を行うとともに病院部長会において、委員会の報告を実施している。

② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)（３名）・無

③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況
・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況
医薬品安全管理責任者は医薬品情報室を活用し、製薬会社医薬品情報担当者、医薬品安全対策情報(DSU)、医薬品・医療機器等安全性情報、PMDA、日本医療機能評価機構等の HP から情報の収集と整理の報告を受ける。また DI ニュース等を毎月定期的に薬剤師が病棟へ重要点を説明して文書配布、さらに医療従事者全員にメール配信、医療端末掲示板への掲示し、院内周知を図る。イエローレター、ブルーレター等は、患者の投薬歴を調査し、関連診療科へ迅速かつ直接、情報提供を行う。また、医療情報提供会社と契約し、毎日医薬品関連ニュースが配布、配信され、それをもとに情報確認して医療従事者へ情報提供する。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況
医薬品安全管理責任者は未承認等医薬品の取り扱いに関して事務局を治験管理室に設置して薬剤部各部署および診療科からの適応外・禁忌に使用する情報を収集し報告を受ける。未承認等医薬品の使用について審議が必要となった場合は、未承認医薬品等評価委員会委員長に報告し、委員会を開催し使用の適否を審議する。また承認された事例は薬事委員会、安全管理委員会へ報告、医療端末掲示板に掲示し院内周知を図るとともに承認後の臨床使用成績についても情報を収集する。また必要に応じ手順の見直しを行っている。

・担当者の指名の有無（(有)・無）
・担当者の所属・職種：

（所属：薬剤部　，職種　薬剤師　　）	（所属：　　，職種　　）
（所属：　　，職種　　）	（所属：　　，職種　　）
（所属：　　，職種　　）	（所属：　　，職種　　）
（所属：　　，職種　　）	（所属：　　，職種　　）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　（(有)・無）
・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：
IC・診療録管理責任者を長としカルテ委員会を設置。各診療科カルテ委員が定期的にカルテ監査を実施し、IC について規定された事項につき監査を実施、適宜不足事項に関する指導を実施している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：
IC・診療録記録責任者を長としカルテ委員会を設置。各診療科カルテ委員が定期的にカルテ監査を実施し、各々の規定された項目につき監査を実施、監査状況に応じて指導を行っている。
また、初任実務研修医に対しては、新着任者教育の際に診療録記載マニュアルを用いて教育を実施している。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無

・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（3）名
うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（3）名
うち薬剤師：専従（1）名、専任（　）名、兼任（　）名
うち看護師：専従（2）名、専任（　）名、兼任（　）名
（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること
・活動の主な内容：
（1）　事故等に関する診療録や看護記録への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
（2）　患者や家族への説明等事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。
（3）　事故時の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。
（4）　医療安全に係る連絡調整に関すること。
（5）　医療安全に資する診療内容のモニタリング及び職員の医療安全の認識の状況の確認
（6）　医療の安全に係る教育・研修の企画及び運営に関すること。
（7）　医療安全に係るマニュアル類の整備に関すること。
（8）　医療安全文化の醸成に関すること。
（9）　前各号に掲げるものの他、医療安全対策の推進に関すること。

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（3件）
・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（　(有)・無　）
・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　(有)・無　）
・活動の主な内容：
（1）　高難度新規医療技術の提供の申し出の受領
（2）高難度新規医療技術評価委員会の開催
（3）高難度新規医療技術承認後の実施事例のモニタリング

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　(有)・無　）
・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（　(有)・無　）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（　１３件）、及び許可件数（　１３件）
・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）

・活動の主な内容：
（１）未承認新規医薬品等の提供の申し出の受領
（２）未承認新規医薬品等評価委員会の開催
（３）未承認新規医薬品等評価委員会における審議結果報告、記録の作成・保管
（４）未承認新規医薬品等評価委員会の実施事例のモニタリング

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無　（ 有・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年　316　件
・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年　30　件
・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
安全管理委員会において全死亡症例の報告を実施。全死亡例における死亡例カンファレンス実施状況の各診療科別の報告、病理解剖実施率、Ａｉ実施率について報告。全死亡症例の概要についても報告を行い、安全推進室にて検討を実施した事例について報告を行い、必要に応じて審議を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（ 有（病院名：弘前大学附属病院）・無）
・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有（病院名：岐阜大学附属病院）・無）
・技術的助言の実施状況
（１）医療安全管理部門における専従事務の配置
（２）診療情報管理士の配置について
（３）臨床工学技士のマンパワーの充足について
（４）病棟常備配置薬の劇薬表示について
（５）未承認新規医療機器の適否を決定する部門の設置について
（６）高難度新規医療技術に関する担当部門への手術を行う部門に所属する従業員の配置について
（７）高難度新規医療技術評価委員会委員に歯科医師を含めることについて
（８）インフォームドコンセントにおける異なる職種の同席について

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況
事務部運営支援課に「患者相談窓口」を設置

⑫ 職員研修の実施状況
・研修の実施状況 医療安全・感染対策講習会を２回／年実施。未受講者については、追加ビデオ講習会を実施し全職員の受講を確認。 【平成３１年度実績】 第１回　令和元年６月18日　第２回　令和元年７月24日　第３回　令和２年１月22日

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 公益財団法人　日本医療機能評価機構開催　2019年度特定機能病院管理者研修受講 ・管理者（2019/10/11　東京） ・医療安全管理責任者（2019/10/28　東京） ・医薬品安全管理責任者（2019/8/2　東京） ・医療機器安全管理責任者（2020/2/12　東京）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第７条の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容　　現在、策定中。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（　有・無　） ・ 公表の方法

規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・(無)
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（　有・無　） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（　有・無　） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（　有・無　） ・ 公表の方法	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無

・合議体の主要な審議内容
(1) 病院の管理運営に関すること。
(2) 病院の医療安全管理及び訴訟に関すること。
(3) 臨床教育に関すること。
(4) 病院の手術及び医療材料に関すること。
(5) 病院における諸施策の評価に関すること。

・審議の概要の従業者への周知状況
議事録の回覧

・合議体に係る内部規程の公表の有無（ (有)・無 ）
・公表の方法
防衛医科大学校病院運営会に関する規則（平成17年防医大病院規則第2号）として規定し、防衛医科大学校法規類集に掲載するとともにインターネットでも閲覧可能としている

・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・(無) ）

合議体の委員名簿

氏名	委員長（○を付す）	職種	役職
淺野　友彦	○	医師	病院長
木村　文彦		医師	副院長
辻本　広紀		医師	副院長
青柳　　博		事務	事務部長
小杉　隆祥		薬剤師	薬剤部長
平　　尚美		看護師	看護部長
池脇　克則		医師	病院長補佐
塩谷　彰浩		医師	病院長補佐
齋藤　大蔵		医師	病院長補佐
池田　建彦		医師	病院長補佐

規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限
・　管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・　公表の方法 防衛医科大学校の編制等に関する省令（昭和48年総理府令第65号）として公表しており、インターネットで閲覧可能である。 ・　規程の主な内容 防衛医科大学校の編制等に関する省令（昭和48年総理府令第65号）第13条第5項において、「病院長は、学校長の命を受け、院務を掌理する」と規定されており、病院に係る業務のすべてを統括し責任を有している。 ・　管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割 防衛医科大学校病院においては、管理運営担当と医療安全担当の2名の副院長及び4名の院長補佐を任命し管理者たる病院長をサポートするとともに、病院事務部に運営企画課を設け、病院に係る各種企画業務等の補佐を実施している。 ・　病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況 防衛医科大学校病院の副院長、院長補佐、各部長等に対し、可能な範囲で、人事院や防衛省本省で実施する管理者研修等を受講させている。

規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無

・監査委員会の開催状況：年２回
・活動の主な内容：
下記の項目について監査を実施、状況に応じて実地での確認を行う
１）医療安全部門の業務に関すること。
２）全死亡例報告に関すること。
３）インシデント・アクシデントの発生の事実、発生前状況に関すること。
４）医療安全管理に関すること。
５）インフォームド・コンセントの適切な実施状況に関すること。
６）医療機器安全管理に関すること。
７）高難度新規医療技術に関すること。
８）診療録記載内容に関すること。
９）その他医療安全に関すること。
監査委員は、上記の項目を口頭で説明を受け実地（医療等の現場）での確認を行う。

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ (有)・無 ）
・委員名簿の公表の有無（ (有)・無 ）
・委員の選定理由の公表の有無（ (有)・無 ）
・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ (有)・無 ）
・公表の方法：
防衛医科大学校病院ホームページ

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
斉藤　祐次	所沢市薬剤師会顧問	○	医療に関する見識を有する者	有・(無)	1
大舘　千歳	国立障害者リハビリテーションセンター病院 看護部長		医療に関する見識を有する者	有・(無)	1
島戸　圭輔	二番町法律事務所（弁護士）		法律に関する見識を有する者	有・(無)	1
奈良　信和	自治体職員		医療を受ける者	有・(無)	2
根本　孝一	永仁会入間ハート病院		医療に関する見識を有する者	有・(無)	1

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 防衛省組織令第39条第4号において、防衛省本省内部部局に置かれる衛生官の職務として「防衛医科大学校の管理及び運営一般に関すること」と規定され、管理者（病院長）の業務が法令に適合することの確保及び開設者（防衛大臣）による病院業務の監督に係る体制の整備は、既に講じられている。 ・ 専門部署の設置の有無（ (有)・無 ） ・ 内部規程の整備の有無（ (有)・無 ） ・ 内部規程の公表の有無（ (有)・無 ） ・ 公表の方法 防衛医科大学校病院ホームページ

規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 防衛省組織令第39条第4号において、防衛省本省内部部局に置かれる衛生官の職務として「防衛医科大学校の管理及び運営一般に関すること」と規定され、管理者（病院長）の業務が法令に適合することの確保及び開設者（防衛大臣）による病院業務の監督に係る体制の整備は、既に講じられていることから、別途合議体を設けることは要しない。 ・ 会議体の実施状況（　年０回　） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ (有)・無 ）（　年０回　） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ (有)・無 ） ・ 公表の方法 法令として整備されており、インターネットでも閲覧可能。
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：
会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 （○を付す）	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注）　会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・無 ） ・通報件数（年２件） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有・無 ） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・無 ） ・周知の方法 病院安全管理委員会より、リスクマネージャー全体会議及び病院部長会を通じて周知